

手話総合資料室事業

【目的】手話・ろう者資料の保存、一般利用化

手話総合資料室は、全国各地にある明治以降の手話・ろう者関連貴重資料の散逸を防止し、資料の収集・整理・保存を行います。また、資料を広く一般に利用していただけるように目指します。

【所蔵数】1万点以上の書籍・映像

社会福祉法人全国手話研修センターでは、手話・ろう者関連の書籍・映像資料等を1万点以上所蔵しています。今後も引き続き全国の関係者の方々や聾学校へ貴重資料の寄贈・提供の協力をお願いし、資料の充実を図ります。

【内容】明治以降の手話・ろう教育・ろうあ運動等

手話総合資料室が電子化した資料には、雑誌『聾啞界』等の貴重資料の他、京都府指定文化財である明治時代のろう教育関連の貴重資料も多数存在します。
(明治時代資料タイトル例)

『古川氏盲啞教育法』『聾啞読本 巻一』『音啞手勢五十音手勢図』等

【資料の電子化】明治以降の文献、8ミリフィルム

これまでに全国から寄せられた文献・8ミリフィルムや、日本で最初の障害児学校である京都盲啞院が設立された明治11年以降の貴重資料を電子化しました(2016年3月1日現在文献約280冊、映像資料約60点)。

【一般公開】手話総合資料室ウェブサイト

2016年3月20日以降に「手話総合資料室ウェブサイト(<http://jisls.jp/shiryo>)」を開設し、資料を一般公開します。

(公開予定数) 文献約60冊、映像資料約20点。